

臨床心理士試験対策授業の研修を受けて

心理学部 助教
修士（心理学） 後藤進吾

中島総長先生から直接ご指導を賜りました、今回の臨床心理士試験対策授業の研究会に参加した感想について以下に記述します。

まず、授業冒頭の40分ほどの時間で、中島総長先生はご自身の経験を話しながら、本学での学びが学生にとっては生まれ変わる機会であり、夢の実現につながるということを強調していらっしゃいました。中島先生は37歳を過ぎた頃に渡米され、そこで5年間の学びと努力が、いかに自身の能力を向上させたのかや、その時の苦労について力説なさいました。「これまでの人生をとりかえる。そのためには勉強が必要である。人生は変わるんだという考えを本学で身につけて欲しい」と中島総長先生が熱く仰っていたことに大変感銘を受けました。若い18、19歳で人生を決めるのではなく、今からでも本学で学ぶことで「優秀な頭脳になることができる」と力強く訴えていらっしゃったのも印象的でした。自身の能力を向上させ、夢を実現するために最も簡単な道は資格を取得することであり、「必死に、テキストを手放さず、予習や復習はもちろんのこと、何回も死に物狂いで繰り返し取り組むことで試験に合格する」という自信をつけさせる本学の指導法は、本学の学生にあった理にかなう方法です。東京福祉大学は、学生が夢を叶えるための大学であり、たとえトップクラスの能力を持つわけではない学生であっても、小学校の先生や公務員にしっかり合格できるよう指導をするのが使命です。通常、他の大学であれば公務員試験の受験は、本人自身で予備校に通う等しなければなりません。しかし、本学では学生のみで解くことが難しい問題であっても、教員がわかりやすい言葉に直し、解説をすることで、学生本人がしっかりと理解し、問題を解けるようにすることカリキュラムの中に含んでいます。総長先生のお話から、これらは学生が将来安心して、また安定した職業に就くためであるということでした。このコロナ禍にあって、多くの企業が打撃を受け、不安に晒されていますが、この有事であっても公務員であれば比較的安心感を持ち継続して就業できるという総長先生のお考えには共感いたしました。学生が安心して幸せに暮らす将来を得られるよう指導することは、教育者として常に頭においておかなければならないことだと思います。

学生が試験に合格し、夢を実現するための試験に合格するためには、教える側の教員がわかりやすい言葉を用いることを積極的に意識することが必要です。総長先生は渡米した際のご経験から、能力の高い人は明確でわかりやすい言葉遣いをすると仰っていました。これは臨床心理士という、人の話を聴くことで相手に影響を与える職業とて必須の技能であり、その能力を手本として教員がまず示すことが重要なのではないかと思います。今回の研修会を通し、本学の学生が自身の夢を叶え、将来安定した暮らしを手にするよう、本学のメソッドをしっかりと体得し、教員としての責務を全うする重大さを再確認しました。